

証券コード 7883

株主の皆様へ

株主通信

第78期【中間期】

2022年4月1日～2022年9月30日



サンメッセ株式会社

ゼロベースであらゆることを考えた1年を糧に 100年企業への一步を踏み出しました



サンメッセ株式会社 代表取締役社長

田中 尚一郎

株主の皆様には、平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年、日本年金機構様より受託しました「年金振込通知書」の誤送付事故から1年が経ちました。この過ちを教訓とし、今年度は「原点回帰」というテーマのもと、様々な見直しに着手しており、徐々にその成果も見えてきました。今後も、より信頼される会社となるべく、全社で取り組みを進めてまいります。

第78期上半期(2022年4月1日～2022年9月30日)の業績につきましては、売上高80億40百万円(前年同期比3.3%増)、営業利益9百万円(前年同期比93.5%減)、経常利益85百万円(前年同期比62.4%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益97百万円(前年同期比1,931.6%増)となりました。

当該期間における我が国は、新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種の普及やまん延防止等重点措置の解除など厳しい制限が緩和され、経済活動持ち直しの動きが見られました。しかしながら企業にとっては、資材価格の高騰やウクライナ情勢の緊迫化、為替動向などにより、先行きの不透明感拭えない状況です。印刷業界においても、原材料価格の高騰などにより厳しい経営環境が続いています。当社印刷事業においては、個人情報扱うIPS関連やセットアッセンブリーなどを行うBPO関連等の受注増、イベント事業においては、ウィズコロナ時代の新たな形のイベント運営といった需要が大きく、売上高は前年同期比で2億57百万円の増加となりました。しかしながら利益に関しては、紙、インキ、刷版など印刷を取り巻く資材の価格高騰の影響が大きく、厳しい状況となっています。今後、お客様へ製品価格の見直しをお願いするとともに、これまで以上に製造

のコストダウンに注力し、利益を生み出す力を向上させていきます。2022年10月からは製造本部の管理職をメンバーとする製造戦略会議をスタートし、製造の内製化率向上に取り組んでいます。また設備の更新と製造プロセスの見直しにより、生産効率を上げていくための施策を検討していきます。

なお、通期の業績予想は、今後の経済情勢及び市場動向が不透明であることなどから、これまでの発表の通り、売上高169億40百万円(前年同期比2.0%増)、営業利益3億45百万円(前年同期比25.4%減)、経常利益4億70百万円(前年同期比22.3%減)、親会社株主に帰属する当期純利益2億90百万円(前年同期比9.9%増)としています。今後、業績予想の修正が必要と判断した場合には速やかに公表いたします。

第78期上半期の業績

■ 売上高	80億40百万円
■ 営業利益	9百万円
■ 経常利益	85百万円
■ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	97百万円

原点回帰で「意識」と「行動」を変容

サンメッセは、新・中長期経営ビジョン達成に向けた取り組みを現在進めていますが、2022年度は「原点回帰」をテーマとした非常に重要な年と位置付けています。当社の存在意義や提供価値、組織体制、仕事の進め方に至るまで、あらゆることを見つめ直し、2035年の100周年に向けた一歩を踏み出しています。中でも成長戦略の1つであるIPS (Information Processing Service) 事業は、2021年10月の「年金振込通知書」誤送付事故を受け、事業プロセスをゼロベースで考え、今期よりIPS本部として新たなスタートをきっています。営業(案件の受注)、設計(個々の印刷内容のプログラミング)、製造(印字・封入・発送)の各機能がスムーズに連携し、無理のないスケジュールで間違いなく製品を完成させられる最適な組織編成とワークフローを構築しました。また、IPS事業をはじめとする成長戦略事業を拡大するため第五工場を増築、稼働したことで、ワークスペースや倉庫・出荷場がこれまでよりも広がり、製造、製品管理の面で効率化、最適化に向けた見直しをより良い環境で取り組めるようになりました。

当社では、生産計画を最適なフローで進めるためDXを推進しており、それに必要な設備投資に注力し、生産効率の向上を図っています。2022年3月に導入したハイデルベルグ社の大型商業印刷機「スピードマスターXL106」は、従来機の約1.5倍の生産能力を持っています。当機にはAIが搭載されているため印刷実績を学習し、積み重ねていくことで、さらなる生産性の向上が実現できます。また、プリプレス工程(印刷の前工程)におけるデジタルワークフローとの連携により、生産フロー全体として最適化を実現できることが、これまでの印刷機との大きな違いであり、これにより、業務プロセスは大きく変化します。現在、関係する各部を横断したプロジェクトチームを立ち上げ、印刷におけるDXを推進すべく、それぞれが成すべきことに一から取り組んでいます。



2050年のカーボンニュートラル実現を目指して

サンメッセは、2022年6月、事業活動での温室効果ガス排出量を2050年度までに実質ゼロにする「サンメッセ カーボンニュートラル宣言」を表明しました。地球に住み、活動している企業として、持続可能な環境の実現に向け一歩を踏み出すことは必須であると考えています。当社では、2013年からいち早くScope3の算出を進め、ライフサイクル全体でのCO₂排出量把握に取り組んでいますが、今回は、まず製造時のCO₂排出 (Scope1+2) について、2050年のカーボンニュートラル実現を目指すことを決定しました。その指針として2030年の達成目標を2013年のCO₂排出 (7,109.2t) と比較し、46%の削減 (5,550t) を目指していきます。

また、当社では、大垣市 (岐阜県) を中心に、小学生から高校生まで、多くの学生の皆さんに環境教育に関わるプログラムを提供しています。企業としてCO₂排出削減に取り組むだけでなく、将来を担う若者が地球の環境をより良いものにしていく人材になれるよう、こうした支援を続けたいと考えています。

当社は、1935年の創業以降、大きな戦争やアナログからデジタルへの印刷技術の変革などを乗り越え、今に事業を継続しています。あらゆることを見直したこの1年の経験を100年企業となる大きな転機と捉え、今後もチャレンジを続けていく所存です。株主の皆様には、今後なお一層のご指導・ご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

当初のSDGs宣言を改訂するとともに、独自の社会価値共創事業モデルを策定

社会価値共創事業モデル Sun Messe Social Impact Gifu



2019年、当社では岐阜県の上場企業に先駆けてSDGsへの取り組みを宣言いたしました。6つのゴールに向けてSDGs経営を進めるとともに、岐阜ならではのSDGsを創出するため、地域共創プラットフォーム「Re:touch(リ:タッチ)」を開設しております。

このリ:タッチから、マーブルクレヨンやBinLoop(ビンループ)など、岐阜県の産学官が連携する地域共創が生まれました。2022年5月には、当初のSDGs宣言から対象範囲を拡大し、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」を加えました。併せて当社が展開する社会価値共創事業モデル「Sun Messe Social Impact Gifu(略称SSIG)」を策定いたしました。

ペーパーレス化が加速する印刷業界にあって、SDGsも周知啓発から社会実装する段階になっております。岐阜の価値を未来世代へとつなげるため、今後もSDGs経営を強化してまいります。

BinLoopの回収BOXをショッピングモールに設置

当社と大垣市のガラスびんメーカーの2社でスタートした「BinLoop(ビンループ)」。使用済みのガラスびんを独自に回収してリサイクル・リユースするプロジェクトで、大垣市の地域企業へと連携が広がっております。

2022年6月には、大垣市にあるショッピングモールにビンループの回収BOXを設置。この設置を記念して、同モールにてビンループを啓発するトークセッションが開催されました。当社取締役専務執行役員田中信康がファシリテーターを務め、ガラスびんの回収が環境に優しい循環型社会の実現につながること発信いたしました。



日本デジタルトランスフォーメーション推進協会 岐阜県支部に入会



2022年4月、一般社団法人日本デジタルトランスフォーメーション推進協会（以下、JDX）の岐阜県支部が発足。当社が支部会員として入会するとともに、当社取締役専務執行役員 田中信康が岐阜県支部局長に就任いたしました。

JDXでは、DXを推進する人材の育成や新規事業の創出支援、地方創生など、日本におけるDXの推進に取り組んでいます。

当社は、JDX岐阜県支部への入会を契機に岐阜県における情報産業研究の発信拠点であるソフトピアジャパンと連携。岐阜県におけるDXの推進に貢献してまいります。

絆の強い地域福祉を目指し、社会福祉法人 大垣市社会福祉協議会と包括協定を締結



2022年8月、社会福祉法人 大垣市社会福祉協議会と当社は、SDGs連携と協力に関する包括協定を締結いたしました。

大垣市社会福祉協議会では、SDGsを契機に、さらに絆の強い地域福祉を目指されており、当社のサポートのもとSDGs宣言についても策定されました。

今後も、自治体や地元企業、地域住民との共創により、住み慣れたふるさとで安心して暮らせるまちづくりを実現してまいります。

サンメッセカーボンニュートラル宣言を表明

2022年6月、2050年度までに事業活動での温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「サンメッセ カーボンニュートラル宣言」を表明いたしました。

当社では、製造時に排出するCO₂ (Scope1+2)のほか、Scope3まで含めた総排出量の削減に取り組んでおります。既存事業における省エネルギーの徹底やカーボנקレジットの積極的な活用、お客様へのCO₂を削減する商材の提案などで、当面の目標として2030年の政府目標である2013年度比46%減を目指してまいります。

Scope1 サプライチェーンが排出する温室効果ガス

Scope2 他社から供給された電気や熱、蒸気の使用にともなう温室効果ガス

Scope3 Scope1、Scope2以外の間接的な温室効果ガス



AIがナビゲートする大型商業印刷機を2台導入

当社では、2022年3月にAIが印刷準備をナビゲートする最先端の大型商業印刷機を2台導入いたしました。

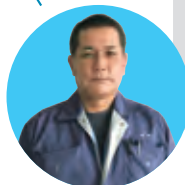
プリネクトインプレスコントロール3(分光光度計を用いたビルドインタイプの品質管理装置)によって、「色」を読み取り自動管理で品質保証が可能となりました。

インライン品質検査装置により、「ピンホール」「汚れ」など自動検知し印刷不良の抑制につながります。

インテリスタート3(AI搭載のジョブチェンジソフトウェア)で、最も効率的なジョブチェンジプログラムを実行し、オートプレートXL3(完全自動刷版交換装置)と連動し準備作業時間の30%削減を目指しています。



VOICE



最先端技術を搭載した印刷機を活用し、より高品質な製品を安定して生産することが可能となります。今後もお客様にご満足いただける製品を提供するため、積極的な設備投資を実施してまいります。

プレス部部长 高橋 肇

小ロット印刷の用途を広げる最新デジタル印刷機



刷版を必要とせず、データから直接印刷ができるデジタル印刷機の登場で、小ロット印刷やバリエブル印刷(可変印刷)への対応が可能となりました。

この度、デジタル印刷機を新規導入いたしました。バリエブル印刷はもちろん、従来の4色カラー印刷に加えて特色など2色を同時に印刷できるようになりました。

表面加工を施したような光沢感や、ゴールドやシルバーなどの特色を補色できたりと、小ロット印刷における付加価値をさらに広げた製品の提供に活用してまいります。

社内報アワード2022でブロンズ賞を受賞

ウィズワークス株式会社が主催する「社内報アワード2022」において、当社の社内報『PRINTER(プリンター)』がブロンズ賞を受賞。昨年に続き2年連続の受賞となりました。

当社社内報は、従業員や家族に当社のことを知ってもらうため、1962年に創刊。以来60年にわたり、コミュニケーションツールとして、また次世代を担うクリエイターのスキル向上としての役割も果たしてきました。

今回の社内報アワードでは、社内コミュニケーションの活性化や従業員のモチベーションアップに貢献している点をご評価いただきました。

今回の受賞を、お客様の社内報をはじめとするコーポレートコミュニケーションのご提案にも活かしてまいります。



VOICE



社内報アワードへの挑戦は、私たち社内報編集員の士気を高めるとも良い機会になっています。従業員から必要とされる社内報であり続けられるよう、今後も尽力してまいります。

ソリューション企画部
本社企画ユニット

高木 沙彩

Sun Messe (Thailand) Co.,Ltd. が設立10周年

グループ会社「Sun Messe (Thailand) Co.,Ltd.」(サンメッセタイランド)が、2022年9月に設立10周年を迎えました。

設立時はわずか1社との取引でしたが、多くの方々のご協力により現在では多数の日系企業のお客様と取引ができるまでになりました。

今後もパートナー企業と試行錯誤を繰り返しながら、現地における製造体制を確立していきます。

歴代駐在員やパートナー企業様をお招きして開かれた記念式典では、社長の田中尚一郎が、これまでの感謝と未来に向けての更なる戦略やリレーションシップを発表しました。

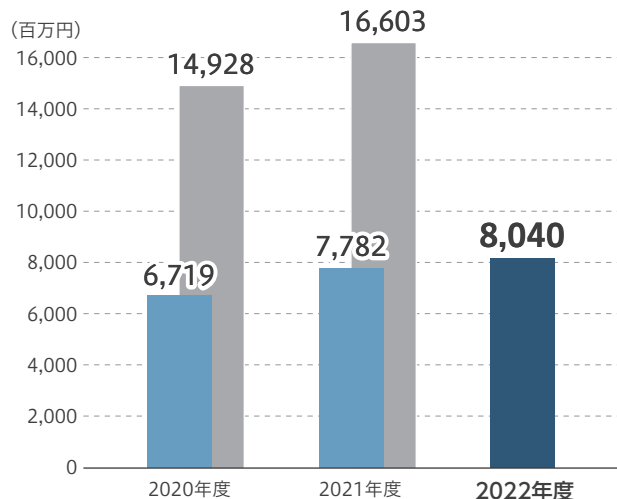


▶ 財務ハイライト

売上高

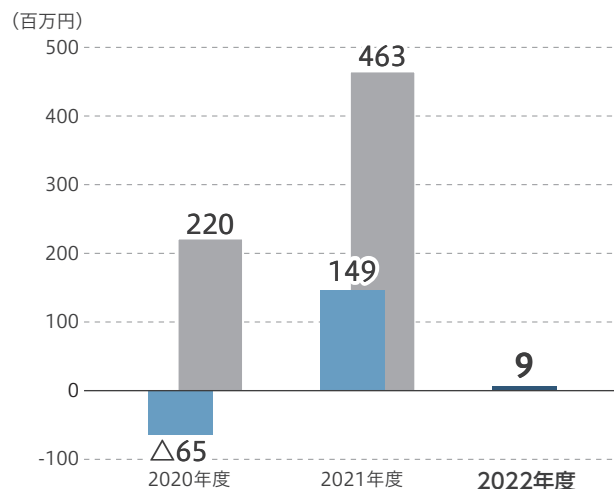
80億40百万円

前年同期比3.3%増 



営業利益

9百万円



POINT

印刷事業につきましては、商業印刷物や出版印刷物、包装・パッケージ印刷物等が減少したため減収となりましたが、イベント事業では、新型コロナウイルス感染症への感染対策の徹底によりイベントを順調に受注、さらにコロナ関連事業も継続して受注できたことなどにより増収となっています。これにより全体としての売上高は増収となりました。

POINT

原材料価格や水道光熱費等の上昇によるコストの増加により売上総利益が減少したことや、荷造運賃等の上昇により販売費及び一般管理費が増加したため減益となりました。

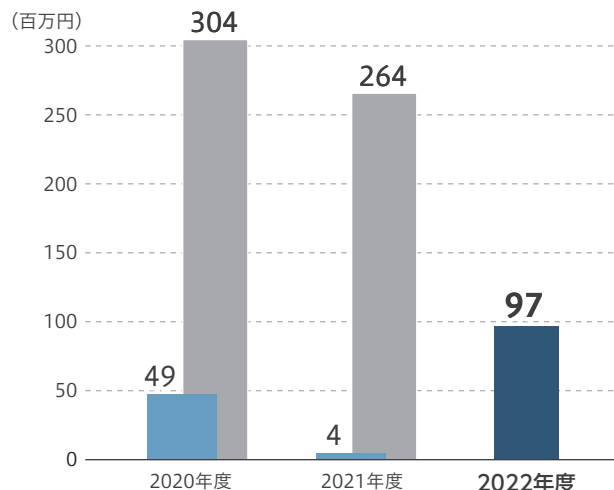
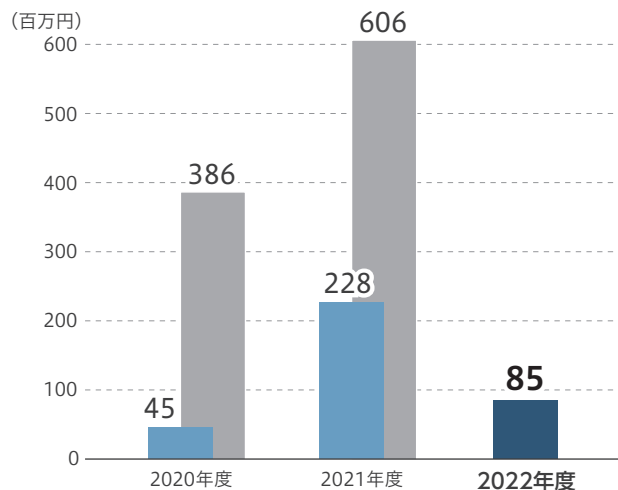
■ 上半期 ■ 通期

経常利益

85百万円

親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

97百万円



POINT

営業外損益に大きな増減はなく営業利益同様に減益となりました。

POINT

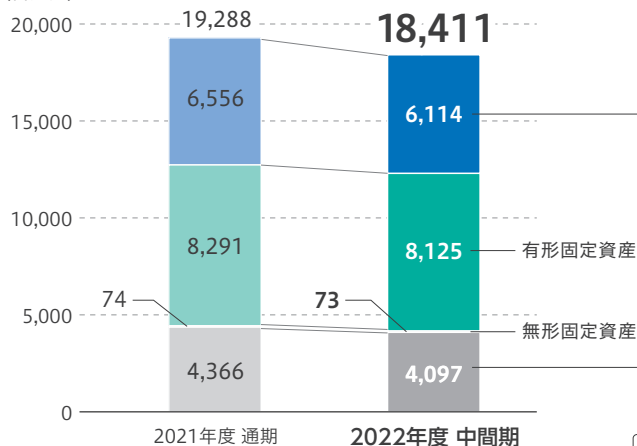
前期につきましては、日本年金機構様の年金振込通知書に係るやり直し等の負担見込額として製品保証引当金繰入額を特別損失に計上していたことなどがありましたが、当期につきましては、その影響はなく増益となりました。

▶ 四半期連結貸借対照表

2021年度：3月31日現在、2022年度：9月30日現在

資産の部

(百万円)



POINT

1 流動資産

現金及び預金や仕掛品がそれぞれ増加しましたが、受取手形、売掛金及び契約資産や電子記録債権がそれぞれ減少したことなどにより減少しました。

POINT

2 投資その他の資産

投資有価証券が減少したことなどにより減少しました。

POINT

3 流動負債

支払手形及び買掛金や賞与引当金がそれぞれ減少したことなどにより減少しました。

POINT

4 固定負債

長期借入金が減少したことなどにより減少しました。

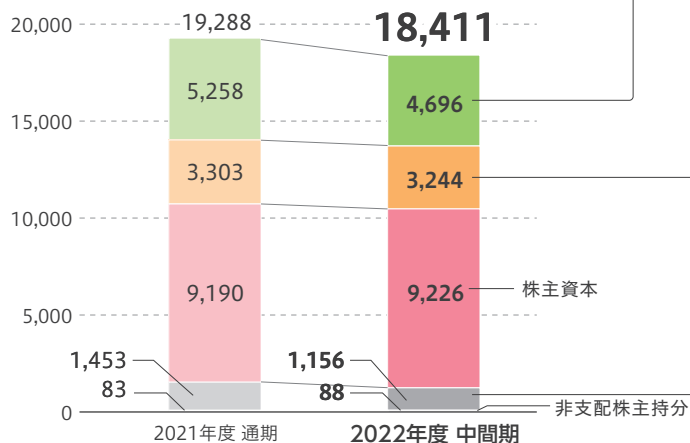
POINT

5 その他の包括利益累計額

その他有価証券評価差額金が減少したことなどにより減少しました。

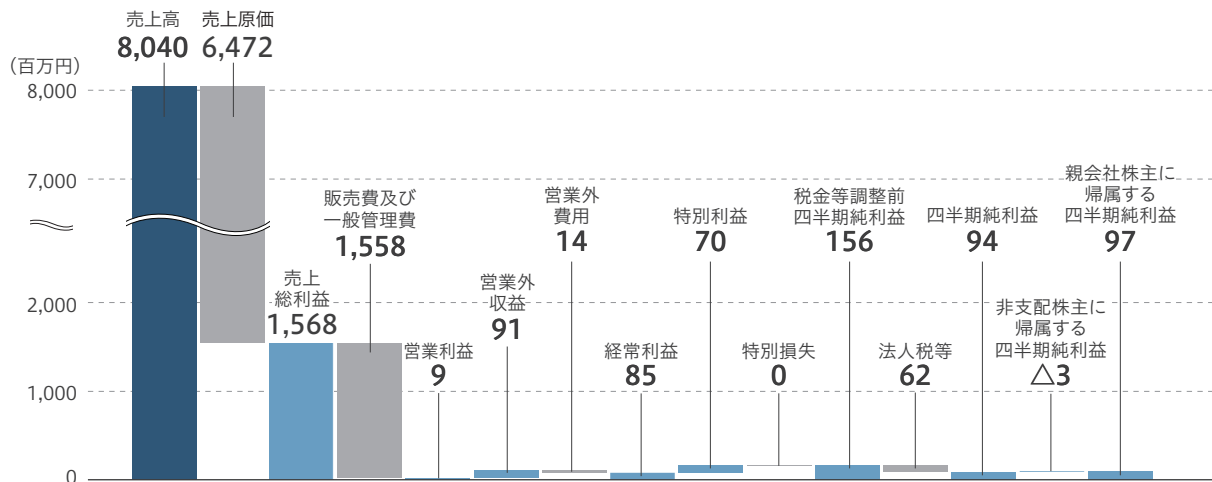
負債・純資産の部

(百万円)



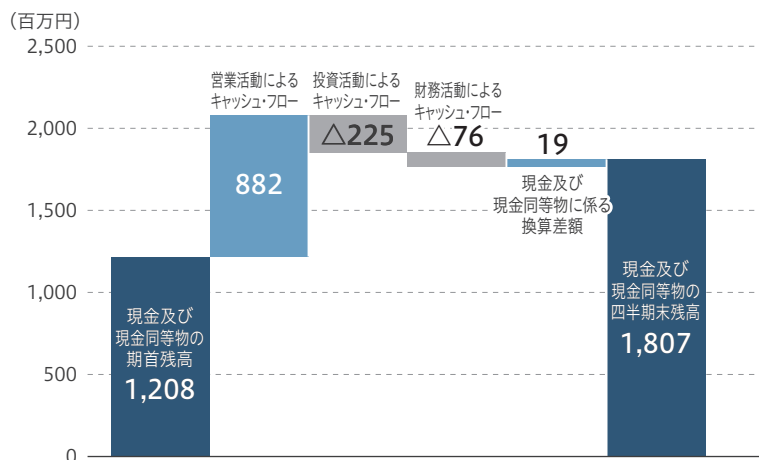
● 株主資本、その他の包括利益累計額、非支配株主持分を合わせて純資産となります。

▶ 四半期連結損益計算書 2022年4月1日～2022年9月30日



▶ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

2022年4月1日～2022年9月30日



▶ 中間配当について

2022年11月4日開催の取締役会において、2022年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主又は登録株式質権者に対して行う中間配当金の支払いにつき、次のとおり決議いたしました。

中間配当金
1株につき **3円**

効力発生日並びに支払開始日
2022年12月9日

株式の情報

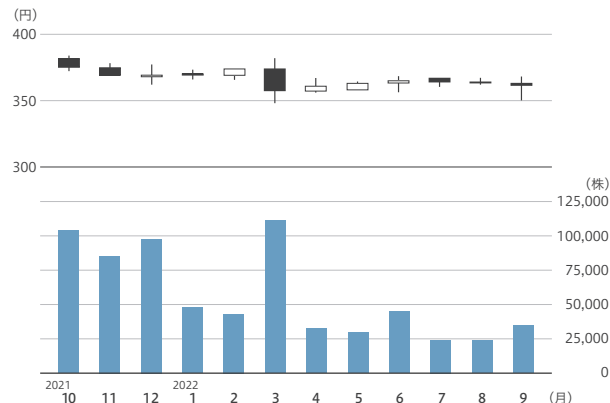
株式の状況 (2022年9月30日現在)

発行可能株式総数 **60,000,000株**

発行済株式の総数 **17,825,050株**

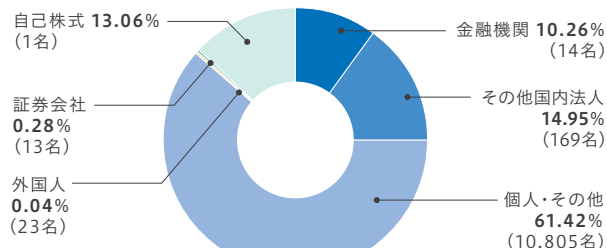
株 主 数 **11,025名**

株価推移

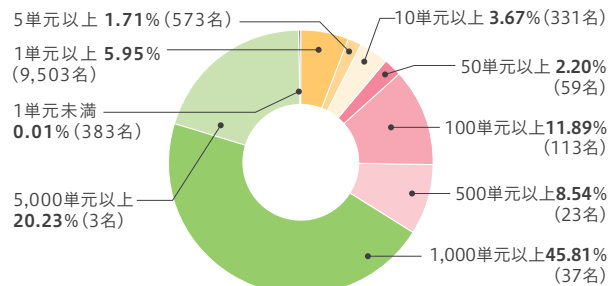


株式分布状況 (注) 比率は小数点以下第三位を四捨五入しております。

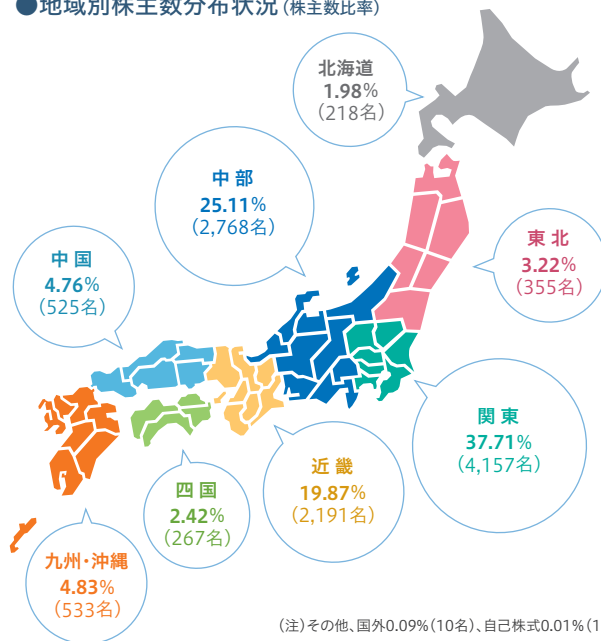
所有者別株式分布状況 (株数比率)



所有数別株式分布状況 (株数比率)



地域別株主数分布状況 (株主数比率)



(注) その他、国外0.09%(10名)、自己株式0.01%(1名)

会社の概況

▶ 会社概要 (2022年9月30日現在)

商号	サンメッセ株式会社
設立	1946年9月20日
資本金	1,236,114千円
従業員数	682名(連結703名) ※嘱託、パートは含まれておりません。

▶ 主要な事業内容

一般商業印刷を中心に出版印刷、包装印刷を営む総合印刷会社。
企画、デザイン、製版、印刷、製本、製袋等に至る設備を有し一貫生産。チラシ制作支援等のシステム開発、セキュリティ、衛生管理を徹底したサービスを実施。印字、封入、封函を行うDPS(デジタルプリントサービス)やPOD(プリントオンデマンド)を強化。WebサイトやDVDなどのコンテンツ制作等の企画開発。

▶ 本社および事業所 (2022年9月30日現在)

岐阜本社	岐阜県大垣市久瀬川町7丁目5-1
東京本社	東京都江東区東陽3丁目22-4
支店	東京支店(東京都江東区) 新宿支店(東京都新宿区) 大阪支店(大阪市中央区) 名古屋支店(名古屋市中区) 岐阜支店(岐阜県岐阜市)
営業所	三重営業所(三重県四日市市) 滋賀営業所(滋賀県彦根市) 静岡営業所(静岡市葵区) 京都営業所(京都市下京区) 愛岐営業所(愛知県一宮市)
工場	本社工場(大垣市)・中工場(大垣市)・西工場(大垣市)
関係会社	日本イベント企画株式会社(岐阜県大垣市) サンメッセタイランド株式会社(タイ王国バンコク市)

▶ 役員 (2022年9月30日現在)

取締役会長	※田中良幸
取締役社長	※田中尚一郎
取締役	伊東覚
取締役	田中信康
取締役	由良直之
取締役	竹林啓路
取締役	千代耕司
取締役	衣斐輝臣
取締役(監査等委員)	水谷和則
取締役(監査等委員)	石岡秀夫
取締役(監査等委員)	澁谷英司

(注)
※は、代表取締役であります。
水谷和則氏は、常勤の監査等委員であります。
石岡秀夫及び澁谷英司の両氏は、社外取締役であります。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
定時株主総会基準日	毎年3月31日(議決権行使株主確定日)
期末配当基準日	毎年3月31日
中間配当基準日	毎年9月30日
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 *公告掲載のホームページアドレス https://www.sunmesse.co.jp/

株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国本支店で 行っております。

[お知らせ]

- 株式に関する住所変更等のご照会及びお届出について
株式に関するお手續(住所、姓名などの変更、配当金の振込方法・振込先の変更、単元未満株式の買取請求など)のご照会及びお届出につきましては、取引証券会社にお問い合わせ下さい。
なお、証券会社で口座を開設されていない株主様は、左記の三井住友信託銀行にお問い合わせ下さい。
- 配当金のお受け取り方法について
配当金領収証による受領方式及び配当金振込口座指定方式に加えて、あらかじめ登録した一つの預金口座で保有しているすべての銘柄の配当金のお受け取りや証券会社の口座でもお受け取りができます。お手続きにつきましては、取引証券会社にお問い合わせ下さい。
なお、証券会社で口座を開設されていない株主様は、左記の三井住友信託銀行にお問い合わせ下さい。
- 未払配当金のお支払いについて
株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行にお問い合わせ下さい。

ホームページのご案内

サンメッセのホームページでは、企業情報等に関する詳しい情報をご覧いただけます。IR情報（投資家様向け情報）やCSR等の取り組みを詳細に紹介した統合レポート（Web版）にも、ダイレクトにアクセスいただけますので、どうぞご利用下さい。

IR情報サイト

<https://www.sunmesse.co.jp/ir/>



統合レポートサイト

<https://www.sunmesse.co.jp/csr/report/>



株主優待制度について

毎年3月末日現在の当社株主名簿に記載または記録された100株以上保有の株主様に対し、年1回保有状況に応じた金額のクオカードを贈呈しています。

保有株式数	優待内容
100株以上 500株未満	クオカード 500円分
500株以上 1,000株未満	クオカード 2,000円分
1,000株以上	クオカード 3,000円分

当社オリジナル
クオカード



※写真はイメージです。



JQA-QM3742



JQA-EM1779
本社・本社工場
中工場・西工場



JQA-IM1480
本社 第五工場



19000127



環境に配慮した植物油
インキを使用しています。



環境にやさしい水なし平版
印刷を採用しています。



FSC® C014989



CO₂の「見える化」
カーボンフットプリント

1部あたり

<https://ecoleaf-label.jp>
JR-AO-22015C



人・物・情報を集積・発信 印刷を核に、情報社会に貢献します

サンメッセ株式会社